2026年期　第6回課題研究テーマ（九州実務補習所）

テーマ	世界中に多数のグループ会社を抱える大企業グループにおいて、買収や事業移管によって新しく傘下に加わった子会社群で、親会社の統一的な会計方針や品質・業務手続が十分に導入・定着していない事象が多く発見された。 各子会社では買収前の独自運用や「ローカルルール」がそのまま引き継がれ、顧客への無断での仕様・工程変更、検査未実施のまま定型数値を記入する検査成績表の作成、滞留在庫の評価減回避、独自の単価調整などの不適切行為が日常業務として繰り返されていた。 親会社の管理部門や内部監査は、主要子会社以外の比較的小規模な拠点や事業部に対して十分な検証を行わず、また単体としての重要性が乏しいと判断して放置していたため、グループ全体でみれば多額かつ深刻な不適切処理が長年にわたり溜め込まれる結果となった。 親会社監査人（グループ監査人）は、単一の拠点や子会社の重要性のみならず、これら小規模拠点における事象を集積したリスクを適切に評価することが必要であると考えている。 上記のケースを踏まえ、以下の【1】～【4】について論述しなさい。 ※論述に当たって前提条件等が必要な場合は自由に補足して構わない。 ※【1】～【4】の記載量について極端にバランスを欠いたものは大幅な減点対象とする。 【1】 M&Aや事業承継等において、親会社の会計方針や決算ルールが子会社末端まで浸透せず、子会社の「ローカルルール」が放置された場合に考えられる連結財務諸表に対する会計上のリスクについて論じなさい。 【2】巨大かつ多層的なグループ企業に対し、親会社監査人（グループ監査人）が果たすべき役割と責任について論じなさい。また、多数の子会社・拠点から発生する予期せぬ不正リスクを検知するための手続を具体的に提案しなさい。 【3】親会社の監査人が「形式的な重要性基準」のみに依存して子会社のリスクを見過ごす姿勢を排し、グループ全体に対する財務報告責任を全うするための職業的注意義務と職業倫理における使命について論じなさい。 【4】本課題での考察を踏まえ、M&Aや多角化を推進する企業グループにおいて、ローカルルールの横行を防ぎ、実効性のある連結ガバナンスと高品質なグループ監査を実現するための公認会計士としての提言を論じなさい。